



●最初の1枚は川島船長が上げた3.5キロ



▲2本の手バネを巧みに操りマダイを釣り上げる川島船長



●ホウボウも釣れる



▲合わせた瞬間にガツンと手に伝わる衝撃は興奮もの!



●糸をたぐって魚を引き寄せタモに誘導する。その釣趣は実にスリリング



▲手バネをシャクってマダイを誘う



●15歳以上の小学生も釣れる



▼千葉県柏市の小宮さんがキャッチした2.5キロ

## 今回の釣り仲間



●取材でお邪魔させていただいたのは、千葉県柏市の高橋昭さんが幹事を務めるグループ。釣り物は手バネのシャクリ釣りで狙うマダイです。

## ●仲間や家族と沖釣りホリデー!

Charter boat fishing with friends and family

# 貸し切り船 ナビ

任立専門

●撮影・文 / 古河好夫

【第5回】  
内房竹岡港

## 豊国丸

内房竹岡港の豊国丸は、手バネのシャクリ釣りで周年マダイを狙う仕立専門の船宿。例年初冬は数、型ともに楽しめる絶好のシーズン。釣り方は船長がレクチャーしてくれるので、ビギナーも安心して出かけてほしい。



▲釣り場は竹岡沖や大貫沖、久里浜沖など。今後は30〜40ピロ前後のタナを探ることが多くなる

### シャクリ釣り一筋の老舗船宿

内房竹岡港から出船する豊国丸が漁の合間に釣り人を乗せるようになったのは、先代が舵を握っていた約70年以上前のこと。職漁で狙っていた魚はもちろんマダイ。竹岡沖のマダイは味がよいとされ高値が付いたそう。道具立ては時代とともに多少変わったそうだが、テナヤにエビを付けてシャクリ釣りは今も変わらない。

小学5年生になったころには、マダイ漁や遊漁船の手伝いを始めていたという川島誠一船長。当時の船頭は1人で3本の手バネを操り、次つぎにマダイを釣り上げたというから驚く。現在は2本の手バネを巧みに操りマダイを釣る船長だが、数年前までは3本竿スタイルで釣っていたそう

だ。「私もこの釣りを始めて60年以上たちますが、職漁にしろ遊漁にしろ、私の中でタイを釣るということは変わらない。だ

### 沖釣り初挑戦でマダイをゲット!

沖釣りは当日が初めてと言っていた千葉県柏市の筒井宣さん。最初は仕掛けの扱いに苦戦していたが、船長や周りの皆さんの指導のおかげでメキメキと上達。中盤にはついにマダイを掛けた。「あんなに大きなマダイが釣れるなんて衝撃です。魚を手にしたときは感激で震えました。ワラサも掛かったんですが、ぼくにはムリと判断して隣で釣っていた小宮さんに上げてもらいました。沖釣りにハマリそうです」



TARGET

## 手バネのマダイ

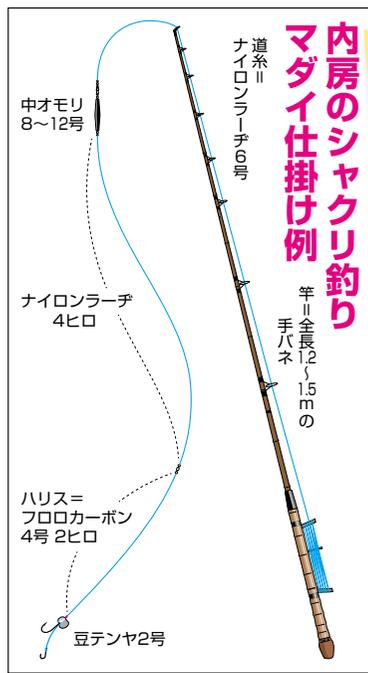
### 川島誠一船長に聞きました!

#### 手バネで釣るマダイのコツ

「まず、この釣りが初めての方は朝の時点で私に申し出てください。一から十までしっかりと釣り方を教えます。この釣りはメートルではなく1ピロ数でタナを取ります。道糸に1ピロごとに目印が付いているので、それでタナを合わせます。投入は仕

掛けを絡めないように注意しながらテナヤと中オモリを投げ入れますが、とにかく速くに投げ入れることが大事です。

テナヤは15センチほど上のハリスをつまんで投げるのがコツで、中オモリはテナヤ側の糸をつまんで投げます。速くに飛ばしてテナヤを潮にさせるようにするとタイの食い格段によくなります。シャクリの間隔は13秒が基本で、エサ取りが多いときや入れ食いになったときは10秒に縮めます。アタリがあったら手バネでしっかりと合わせてから糸をたぐってください」



からお客さんには絶対負けませぬよ」と笑みをこぼす。ちなみに船長が釣ったマダイはお客さんたちのお土産となる。さて、現状だが近年は秋〜冬にかけてもマダイの型がよいのが特徴で、2〜3キロ級がそろい5〜6キロクラスも上がっているという。イナダやワラサなどのゲストが多彩なもうれしいところだ。

基本。中オモリは探る水深に応じて船長が用意してくれるのでそれを使う。今後は30〜40ピロ(約45〜60メートル)前後のタナを探ることが多くなるそう。このぶんなら11〜12月は水温もちょうどよくなって最高に楽しめると思いますよ」と船長。手バネを使って釣る伝統釣法と聞くと、玄人好みの難しい釣りなのでは?と思うかもしれませんが、希望により出船前に川

●内房竹岡港  
**豊国丸**  
TOYOKUNIMARU  
●Takeoka Port, Uchibo  
☎0439-67-8203 (詳細は巻末の情報欄参照)

**料金プラン**

●1名より受付。1～2名で利用する場合は(平日)3万7800円、(日曜・祝日)4万1040円。3名は(平日)4万3200円、(休日)4万6440円。それ以上は1人増すごとに5400円。上記はすべて税込みの料金。帰港後に船宿にて精算。

**豊国丸の船宿**



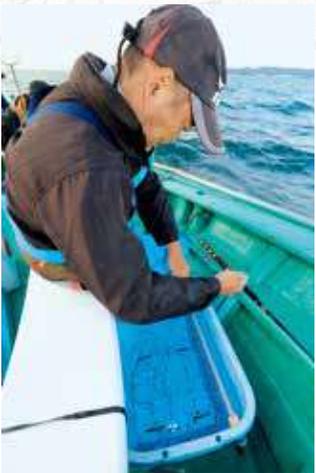
▲中オモリは8～10号、テンヤは2号を使用。エサは生きエビや冷凍エビを使う

**利用ガイド**

- 【予約方法】** 電話にて日程、人数、希望の釣り物などを伝えて日取りを確保
- 【出船時間】** 5時半～(季節によって変動あり)。沖揚がりまで最大7時間
- 【エサ、氷、仕掛けなど】** 氷、エサ付き。テンヤは船宿で販売
- 【レンタルタックル】** 手バネ一式貸し出し無料
- 【集合場所】** 船宿に集合。車は船宿に隣接する駐車スペースに停める
- 【備考】** 希望により、出船前に船長から釣り方のレクチャーが受けられる



▲竹岡港の左岸より出船。「最大10名まで、8名までが釣りやすい」と船長



▲糸をたぐるときは、絡み防止のための水が出るタルに糸を収める



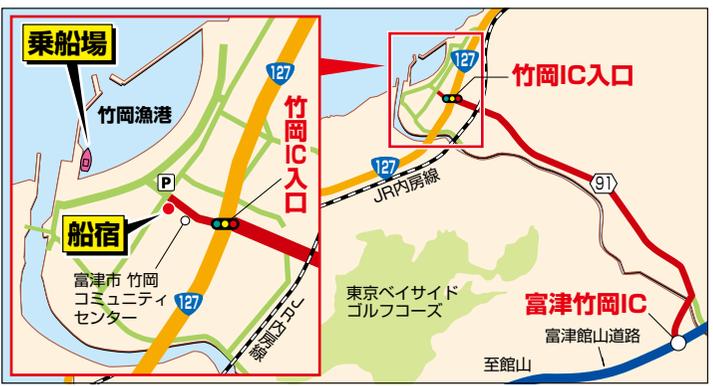
●ハナダイも交じった



▲イケースの中が色々な魚でいっぱいになった



▲掛けた魚が走ったときは糸を出して対応する



**《釣り物カレンダー》**

釣り物	シーズン(月)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
マダイ		🐟	🐟	🐟	🐟	🐟	🐟	🐟	🐟	🐟	🐟	🐟	🐟



▲大きなマダイやワラサが掛かったときは、尻手ロープを付けた手バネを海に入れて対応する



▲最後の最後に太ったワラサが上がった



▲この日初めて沖釣りに挑戦した柏市の筒井さんにヒット!



▶人生初のマダイを釣り上げてニコリ!

▲良型のカワハギも顔を見せた



▲テンヤや中オモリは糸を15センチほど取った部分をつまみ投げ入れる



●仕掛けはできるだけ遠くに投げる



**豊国丸のココが好き!**

**幹事の高橋 昭さんに聞きました!**  
**船長の釣りに対する思いが情熱的で、すっかりハマりました!**

「豊国丸を利用するようになったのは5年ほど前からで月イチのペースで通っています。川島誠一船長の釣りに対する思いが情熱的でした。オレはいつでも負けない、というオーラを出しながら、2本の手バネを操る姿がなんともいいですね。楽しんでもらおうと頻りにポイントを変えてくれて、いつもよく釣らせてもらってます」

当日は5名で乗船し、一人あたりの料金は1万8000円。協力ありがとうございました。

▶幹事の高橋さんがキャッチした3キロ級の美しいマダイ

島船長が釣り方を教えてくれないに教えてくれるから、釣りが初めての人でも心配は無し。実際に、初めてこの釣りに挑戦した良型のマダイを数枚上げて、すっかりハマってしまった人も少なくない。ぜひこの機会にチャレンジして、道糸をたぐってマダイを寄せるこの釣りならではの「だいたい」を味わってみてはいかがだろうか。

なお、豊国丸では一つテンヤでの出船も受け付けている。こちらも例年以上に好釣果が上っているそうなので、一つテンヤファンも注目してほしい。

**美しいマダイに青物も! 船上は大盛り上がり**

豊国丸を訪れたのは10月20日のこと。千葉県柏市の高橋昭さんがマダイのシャクリ釣りで仕立てた船にお邪魔させていただきました。当日は5時半集合、6時に出船。船は大貫沖に向かい、海面から42ヒロ(約63メートル)のタナで開始となった。

2本の手バネを巧みに操りながら船を操船する川島誠一船長。この釣りは良型のマダイが出るので、

「ここで私が狙っているのは5キロクラスです」と言い、その数分後に見事魚を掛けた。

糸をたぐり、魚が走ったら手の中で糸を滑らせてタモに収まったのは後計量3.5キロのマダイ。さすがは川島船長といったところだ。

続いてヒットさせたのは幹事の高橋さん。慎重なやりとりが続き、浮上したのは3キロ級のなんと美しいマダイで思わず見とれてしまった。

「この間に川島船長は1〜2キロ級のマダイを連発しているからスゴイ。中盤に差しかけたあたりで再び筒井さんにヒットしたが、最初に釣ったマダイとは比べものにならない強烈な引きを見せ、ベテランの小宮さんにバトンタッチ。慎重なやりとりでタモに収まったのは3キロ級のワラサであった。

その後も1キロ級のマダイがポツポツと顔を見せ、ワラサのほかホウボウやカワハギ、ハナダイなども登場。船のイケースは魚でいっぱいになり、皆さん大満足で沖揚がりの時間を迎えた。スリル満点の釣りが味わえるシャクリ釣りのマダイ。年末にかけてもおすすです。

しばらくして今度は柏市の小宮さんがピンッと合わせた。慣れた手つきで釣り上げたのは2.5キロ級。

「合わせた瞬間のガッン! がたまりませんね」と小宮さん。その後、この日初めて沖釣りに挑戦した柏市の筒井さんにヒット。周りのアドバイスを聞きながら慎重に糸をたぐる。やがて姿を現したのは2キロ級の本命。釣った本人は、「メチャメチャうれしいです。この釣りハマリそうッス」と感激していた。